

# 管楽合奏は楽しい会？

No.42” 残念ながらバッハが…”

2014年5月4日(日・祝)14時開演 深川江戸資料館小劇場

ベートーヴェン (独/1770~1827)

「管楽八重奏曲 作品103」

(Ob)楠原/土屋 (Cl)兼氏/宮下 (Fg)森川/山田 (Hn)井上/萩原

ブラームス (独/1833~1897)

「ハイドンの主題による変奏曲」

(Fl)岡添 (Ob)土屋/山本 (Cl)兼氏/宮下 (Fg)山田/角山 (Hn)佐藤/萩原

----- Intermission -----

T. デュボア (仏/1837~1924)

「組曲第2番(管楽八重奏)」

(Fl)信澤/岡添 (Ob)楠原 (Cl)景山/宮下 (Fg)阿部/角山 (Hn)井上

J. ラフ (独/1822~1882)

「シンフォニエッタ 作品188」

(Fl)信澤/岡添 (Ob)土屋/山本 (Cl)景山/兼氏 (Fg)辻/阿部 (Hn)鬼村/佐藤

デュボア第2組曲の各題名 ①弓射手のロンド ②レズビアンの歌 ③小ワルツ ④明けの明星 ⑤メヌエット

## 出演者の簡単なプロフィール(楽器別50音順)

(Cond & Fg/解説)森川 一 (もりかわ はしめ)

法政大学在学中ファゴットを始め、菅原眸氏に師事。同校卒業後、東京藝大別科で三田平八郎氏に、その後元ハンブルク州立劇場奏者フリッツ・ヘンカー氏に師事する。フリーの奏者として活動し今日に至る。78年より毎年ソロ及び室内楽の演奏会を主催。その他オケのトレーナー、文筆など多岐に渡る活動を行う。「管楽合奏は楽しい会？」及び「フルスヴァルト合奏団」「森川室内楽」などを主宰、またリード製作者としても高い評価を得ており「森川ファゴット&リード倶楽部」を運営している。ファゴット演奏者倶楽部設立世話人代表及び「法政ファゴットの会」同人

(Fl & Cond)岡添 隆(おかぞえ たかし)

京都大学音楽部交響楽団でフルート奏者、学生指揮者として活躍する。フルートを佐々木伸浩氏、持田洋氏に、フラウト・トラヴェルソを森本薫氏に師事。現在はアンサンブル・メゾン、東京アマデウス管弦楽団で演奏活動中。普段は某メーカーで化学の技術総括に携わる。「研究のアイデアは音楽で演奏する時のアイデアと共通するものがある」と主張し、部下達にあきられている。指揮もする才人。

(Fl)信澤達也(のぶさわ たつや)

高校1年のとき隣席の友人の勧めでフルートを始め、磯辺庄平氏に師事。東京大学音楽部管弦楽団を経て卒業後は東京アマデウス管弦楽団で活動し、2009年より団長を務めている。鉄鋼系化学メーカーで永らく研究職を勤めたが、現在は特許関係の仕事に移った。終日机に向かう仕事なので、運動不足が気になる昨今である。

(Ob)楠原千佳子(くすはら ちかこ)

中学からオーボエを始め、藤原勲氏に師事。東京大学音楽部管弦楽団を経て、現在は東京アマデウス管弦楽団及びアンサンブル・メゾンに所属。大学～大学院を通して、コンクリート相手の研究で手がガラガラした時期もあったが、現在は少し手にやさしい社会人となった。

(Ob)土屋英晃(つちや ひであき)

東京都出身。14歳よりオーボエを始める。桐朋学園大学音楽学部、同卒業演奏会出演。同大研究科修了。第12回別府アルゲリッチ音楽祭、ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン2011にオーケストラメンバーとして出演。2009年、市川市文化振興財団第22回新人演奏家コンクール管楽器部門で優秀賞を受け新人演奏会に出演するなど同財団主催の演奏会に多数出演。コンセール・ヴィヴァン第29回新人オーディション合格し優秀賞を得る。オーボエを藤村理子、宮本文昭、嶋崎耕三、浦丈彦の各氏に、また室内楽を白尾彰、岡本正之の各氏に師事。現在は洗足学園ニューフィルハーモニック管弦楽団及び洗足学園音楽大学演奏補助要員であり、Ensemble Le Creusetメンバー更に市川市文化振興財団フレッシュアーティストバンクに所属。

(Ob)山本悦子(やまもと えつこ)初参加!

川崎市立御幸中学校吹奏楽部でオーボエを始め、神奈川県立新城高校吹奏楽部、専修大学フィルハーモニー管弦楽団を経て、2001~2013年までエルムの鐘交響楽団にて活動。2008年~菅原眸先生にご指導戴いているハルモニア合奏団で管楽アンサンブルを始め、「管楽合奏は楽しい会？」に今回初めて参加する。最近、医療系図書館司書から病院広報担当に転職した。趣味は海釣りやサイクリングである。

(Cl)景山賢嗣(かげやま けんじ)

東京大学音楽部管弦楽団を経て、現在は東京アマデウス管弦楽団、ダンゲダーク管弦楽団に所属。これまでにクラリネットを平林邦男、兼氏規雄の両氏に師事。平日は大手情報通信企業にてシステムエンジニアとして勤務している。某コンビニATMの取引中継オンラインシステムを担当

(Cl)兼氏規雄(かねうじ のりお)

東京藝術大学附属高校を経て同大学卒業。ミュンヘン国立音楽大学留学。NHK洋楽オーディション合格。NHK「午後のリサイタル」等に出演。水戸芸術館「公募企画シリーズ」の第1回出演者に選出されリサイタルを開催。08年、東京オペラシティでのリサイタルについて、「音楽の友」誌上で絶賛される。水戸芸術館主催の「茨城の名手・名歌手たち」オーディション審査員、「茨城の演奏家による演奏会企画」選考委員、茨城県の新人演奏会出演オーディション審査員、新人賞選考委員。また、日本クラシック音楽コンクールの全国大会木管楽器部門審査員も務める。現在、上野学園大学音楽学部、茨城大学教育学部、大東文化大学文学部講師、水戸ゾリステン代表。フルスヴァルト合奏団同人

(Cl)宮下節子(みやした せつこ)

学生時代は東京大学音楽部管弦楽団で活動し、その後名古屋市内管弦楽団を経て、現在は東京アマデウス管弦楽団で演奏している。クラリネットを平林邦男氏に師事。平日は裁判所で働く国家公務員。

(Fg)阿部憲一(あべ けんいち)

京都大学交響楽団で活躍する。ファゴットを日名弘見氏に師事。現在は東京アマデウス管弦楽団、アンサンブル・メゾンで演奏活動。令夫人はプロのヴァイオリン奏者、二人の令息はヴァイオリンとチェロを弾き、令嬢は藝大卒の声楽家と言う音楽一家の大黒柱。欧米、アジア各地へ海外出張の多い国際派ビジネスマンでもある。2010年5月の楽しい会？出演後アメリカに赴任し、2012年春に帰国後当会に復帰し、オケ活動も再開する。ファゴット演奏者倶楽部設立世話人

(Fg)角山由美(かくやま よしみ)

法政二高では吹奏楽部、その後法政大学交響楽団で演奏、ジュネスにも出演する。大学卒業と同時に(社)日本音楽著作権協会(JASRAC)で音楽家の権利を護る仕事一筋に勤めてきたが、仕事から退いたのを機にファゴットの基本から取り組んでいきたいと、演奏する事への意欲は益々盛んである。加えてコントラファゴットの名手でもある。「管楽合奏は楽しい会？」ホームページの管理人。ファゴット演奏者倶楽部設立世話人及び「法政ファゴットの会」同人

(Fg)辻 昭雄(つじ あきお)

法政二高、法政大学、同大学院と吹奏楽と交響楽団でファゴットを演奏。ファゴットを森川一氏に師事。現在は東京アマデウス管弦楽団及びフライハイト交響楽団に所属し、母校である法政二高で教鞭を採っている。ファゴット演奏者倶楽部設立世話人及び「法政ファゴットの会」同人

(Fg)山田祐理(やまだ ゆうり)

10歳くらいまでヴァイオリン、中学でユーフォニアム。法政二高吹奏楽部でファゴットを始め、その後法政大学交響楽団、ジュネス等で演奏。ファゴットを森川一氏に師事。現在は東京アマデウス管弦楽団、ナズドラヴィ・フィルハーモニーで演奏するほか、エキストラとして数多くのオケに出演。背にはコントラ、手にはファゴットを持ち東奔西走している。平日は大学教員(物理化学)。ファゴット演奏者倶楽部設立世話人及び「法政ファゴットの会」同人

(Hn)井上華子(いのうえ はなこ)初参加!

小学校で金管バンドを始め中高は吹奏楽、千葉大学では管弦楽団に所属する傍ら、インセクツ・ウィンド・アンサンブル(音楽監督/菅原暁先生)で管楽合奏にも勤しむ。普段は小学校教諭として吹奏楽部の指導をしながら、現在もオーケストラとアンサンブルの二足の草鞋で演奏を楽しんでいる。この度、以前より交流のあった森川先生のお誘いを受け、「管楽合奏は楽しい会？」に初出演を果たす。インセクツと違い、年齢層も広くプロの方も参加している環境で少々緊張しているが、その中で楽しんで演奏したいと張り切っている。

(Hr)鬼村真由子(おにむら まゆこ)初参加!

高校の吹奏楽部でホルンを始め、東京大学音楽部管弦楽団を経て、卒団後は東京アマデウス管弦楽団や金管アンサンブル団体で活動。某ビール会社勤務で転勤族のため、ドイツや九州など転勤先でもオーケストラを見つけ細々と活動していたが、昨年入社以来初の東京勤務となり、アンサンブルなど活動を展開中。

(Hn)佐藤千明(さとう ちあき)初参加!

福島県出身。桐朋学園芸術短期大学卒業、同大学専攻科修了。同大学卒業演奏会に出演。ホルンを大野晃平、吉永雅人室内楽を白尾隆、蓼沼恵美子の各氏に師事。室内楽やオーケストラ、ミュージカルでの演奏を中心に活動している。

(Hr)萩原裕人(はぎわら ひろと)

大学時代は東京大学音楽部管弦楽団で活動し、その間ホルンを須山芳博氏に師事。退団後、東京アマデウス管弦楽団、Brass Ensemble Celeste等に所属。この4月より愛知県に転勤となったことを契機に、新たな環境に身を置くことにより自らの音を改めて厳しく見つめ直し、普遍的に「美」と言える音響を会得して帰京することとしている。

本日のプログラムにはドイツとフランスの作曲家で構成しました。ドイツの3大Bで揃えたかったのですが、バッハの良い編曲が手に入らなかったのが残念です。ハルモニウムジークは宮廷で発展した音楽ですので、教会音楽中心のバッハには無縁だったのかも知れません。その息子達は書いていますが、それはともかく、こうした楽譜は入手し難いのが問題です。管楽の楽譜は売れないので出版されないし、されても再版されず、買うより高い貸し譜代の掛かるものも少なくありません。その上、楽譜に間違いも多いのでは救いが無い様ですが、それでも管楽合奏は楽しいのです。ほとんどマゾですね(笑)

"管楽合奏は楽しい会?"は文字通り管楽合奏の楽しさを追求しています。またプロとアマが合奏をする事で、その間にあると思われる「最良の演奏」を狙う団体です。つまり「プロの技術で、アマチュアの心」を持った演奏が出来れば、これこそが「フィルハーモニー」だろうと考えるのです。そうした理想にどれだけ近付けるか、その判断は御来場の皆様にお任せ致しますが、最後までお楽しみ戴けたなら仕合わせに存じます。

宜しければ、感想などお聞かせ下さい。メールアドレスは [heckelfg@gmail.com](mailto:heckelfg@gmail.com) です。

次回の演奏会は2014年11月29日(土)14時開演 東部フレンドホール